

教科名		社会(公民的分野)	教科書調査報告(教科書調査委員会)
調査の観点	発行者名	東京書籍	教育出版
A 内容について	(1)基礎・基本の確実な定着に関する配慮や工夫がなされているか。	<ul style="list-style-type: none"> ・1単位時間の授業ごとに学習課題や学習の流れが明確に示されており、学習の見通しが立てやすい。また、単元のまとめに、評価の観点に対応した学習のまとめを行うことができるように整理されている。 ・各ページに「チェック」があり、本時で身に付ける基礎的・基本的な知識を確認することができる。また、章のまとめで「確かめよう」の「ワードチェック」で学んだ用語について確認し、学習を振り返ることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・追究に使う資料の読み取りや考察のポイントを示した「THINK！」や章末にある「学習のまとめと表現」に示された「HOP！」で基礎的・基本的な知識や技能の定着を図ることができる。 ・「公民の窓」に示された実際の事例や小学校、他分野、他教科との関連を示すことで日常生活やこれまでの既習事項と関連付けて学ぶことが可能となっている。
	(2)課題解決のために必要な思考力や判断力、表現力等を育成することに関する配慮や工夫がなされているか。	<ul style="list-style-type: none"> ・単元ごとの「探究のステップ」には、探究課題の解決を補助する問いが設定され、無理なく課題解決的な学習に取り組むことができるよう工夫されている。 ・対話的な学びを促す「みんなでチャレンジ」や基礎的・基本的な技能を身に付ける「スキル・アップ」のコーナーを活用し主体的・対話的な活動から深い学びにつなげ、思考力や判断力、表現力等を育成することが可能となっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・本時の内容にも一歩踏みこんだ内容を考える「TRY！」や公民的分野で身に付けたい技能や表現力を養う「公民の技」、学習してきたことを活用して表現する「表現」を設けており、課題を解決するための思考力や判断力、表現力を養うことができるよう工夫されている。 ・巻頭の「公民で学ぶ主な学習内容と見通し」では、地理的分野と歴史的分野と連携が図られ、多くの学習が公民的分野に関連していることを生徒が意識できる構成になっている。
	(3)資料が精選され、その内容が時代に即応したものになっているか。	<ul style="list-style-type: none"> ・写真資料やグラフデータが時代に即したものとなっており、「18歳へのステップ」で現代的諸課題である主権者教育との関連が示されている。 ・「QRコンテンツ」があり、家庭学習やグループ学習など、様々な場面で活用でき、生徒の学習意欲を高める便宜が図られている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・写真資料やグラフが最新のものであり時代に即しており、巻頭の「現代を生きる私たち」で現代の諸課題に関する最新の写真を掲載している。 ・「LOOK！」では、学習のきっかけとして追究の中心となる資料を掲載している。また、「公民の窓」では、生徒の興味や関心を広げる内容が掲載され現代社会の諸課題について学ぶことができる。
	(4)持続可能な社会づくりに向けた教育・ESDの視点が取り入れられているか。	<ul style="list-style-type: none"> ・「もっと知りたい」などの特設ページにおいて、SDGsと関連する内容が示されている。また、第5章ではSDGsについての導入の資料やSDGsの目標4について考える活動、終章においては5つのテーマをSDGsの目標と関連付けて考える活動が設定されている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・公民的分野とSDGsとのつながりを示し、巻末の「持続可能な未来を目指す人々」では写真でSDGsのそれぞれの目標との具体的な関係を示している。「持続可能な社会に向けて<<13テーマ>>」の特設ページでは、社会の諸課題を捉え、その解決に向けて協働しながら多面的・多角的に考察し、表現する学習活動が設定されている。
B 使用上の便宜について	(1)生徒が主体的に学習を進めやすいような便宜が図られているか。	<ul style="list-style-type: none"> ・章の構成は、「①課題をつかむ ②課題を追究する ③課題を解決する」となっており、問いを立てて予想しながら学習を進めることができる。また、導入の活動として、単元を貫く「探究課題」や小集団参加型学習「みんなでチャレンジ」を活用して、主体的・対話的な学びを進めるような便宜が図られている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・公民で学ぶ内容の見通しや学び方が示されているとともに、シンキングツールを活用した、「公民のノートづくり」「学習のまとめと表現」のページでは、思考を整理しやすくなっており、生徒が学んだことをまとめやすいような構成になっている。
	(2)多摩市という地域の実態に即しているか。	<ul style="list-style-type: none"> ・第5章「地域社会と私たち」では、導入でSDGsを理解させる活動を取り上げており、「2050年の大人づくり」をスローガンにESDを推進する多摩市の実態に即している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・終章「私たちが未来の社会を築く」では、SDGsの意義や持続可能な未来を目指すための1つの考え方である、エシカル消費が紹介され、多摩市の推進するESDとの関連が図られている。

教科名		社会(公民的分野)	教科書調査報告(教科書調査委員会)
調査の観点	発行者名	帝国書院	日本文教出版
A 内容 について	(1)基礎・基本の確実な定着に関する配慮や工夫がなされているか。	<ul style="list-style-type: none"> 単元の最初の「学習の前に」では、イラストを読み取る活動を通して、単元全体の学習内容を見通すことができ、単元を貫く章の問いを通して知識を定着させる配慮がなされている。 導入資料として授業の学習内容につながる具体例が示されており、授業に入る前にどのようなことを学ぶのか明確に示されている。また、学習課題が示され、見開きで1単位時間の学習内容を見通すことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 見開きごとに学習課題に対応した本文ページを確かめるための問いである「確認」があり、章の「まとめと振り返り」では語句の意味を確認したり説明したりして、基礎的・基本的な知識の定着を図ることができる。 抽象的な社会の仕組みを具体的にイメージできるようにイラストや図版を用いて、生徒が理解しやすい配慮がされている。
	(2)課題解決のために必要な思考力や判断力、表現力等を育成することに関する配慮や工夫がなされているか。	<ul style="list-style-type: none"> 「アクティブ公民AL」では、主体的・対話的で深い学びを実践するために特設ページとコラムで41のテーマが設定されており、現代社会の見方・考え方を働かせて自分の意見をまとめたり、他者との意見を交換しながら学びを深めることができるよう配慮されている。 単元の振り返りでは「学習の前に」を振り返りながら、単元の問いに取り組み、「課題探究学習」のテーマを設定し、単元全体の学習に主体的に取り組むことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 導入資料を用いた問いや「見方・考え方」を働かせて、学習内容の理解を深める活動の「アクティビティ」などが設定されており、課題を解決する際の考察の過程の中で思考力や判断力を養うことのできる構成となっている。 「まとめと振り返り」では、章の問いに答える活動が設定され、章や節の問いに対する最初の予想と最後の自分の考えの変容を自覚できる「章の学習を振り返ろう」が設定されている。
	(3)資料が精選され、その内容が時代に即応したものになっているか。	<ul style="list-style-type: none"> 写真資料が時代に即したものとなっており、グラフデータも最新である。また、特設ページ「18歳への準備」で現代的な課題と主権者教育を関連させて考えることのできる構成となっている。 「QRコンテンツ」が示されており、「学習の前に」ではイラストを大きく明示し、過去と現代の様子と比較し、興味や関心を引き寄せる手だてとなっている。 	<ul style="list-style-type: none"> 写真資料が時代に即したものとなっており、グラフデータも最新である。また、eスポーツやカーボンニュートラルなど新しい事例や身近に感じられる事例が掲載されている。 現代的な諸課題に関わる資料として、新型コロナウイルス感染症やロシアによるウクライナ侵攻など社会に大きな影響を与えた出来事に関わる資料が掲載されている。
	(4)持続可能な社会づくりに向けた教育・ESDの視点が入り入れられているか。	<ul style="list-style-type: none"> 巻頭の「未来に向けて よりよい社会を目指して」においてSDGsについて取り上げられている。また、「アクティブ公民AL」や「未来に向けて」でSDGsや「環境・エネルギー」「防災」「人権・多文化」「平和・安全」「情報・技術」「伝統・文化」の6つのテーマから未来をつくる取組を紹介している特設ページが設けられている。 	<ul style="list-style-type: none"> 「明日に向かって」のページを10テーマ設け、「SDGs未来都市・堺」や「SDGsから社会の課題を考えよう」、「SDGsから未来を考える」などを通して社会参画の意識を高めるような工夫がされている。また、点字などは実物を掲載し、バリアフリーなど社会的課題に関わる資料が掲載されている。
B 使用 上の 便宜 について	(1)生徒が主体的に学習を進めやすいような便宜が図られているか。	<ul style="list-style-type: none"> 各章末のまとめでは「探究学習への準備」も設けられており、第5部の「課題探究学習」に向けて、自己のテーマを設定して中学校の社会科のまとめを探究的に進めることが可能となっている。 	<ul style="list-style-type: none"> カラーユニバーサルデザインやユニバーサルデザインフォントが使用され、ユニバーサルデザインに配慮した構成になっている。また、予習や復習で活用できる本文ページの「学習課題」や「確認・表現」があり、個別で追究することが可能である。
	(2)多摩市という地域の実態に即しているか。	<ul style="list-style-type: none"> 「みんなで守る多摩川」と題して、多摩市にも流れている多摩川の利水に関する内容や、水質の改善について取り上げられているとともに、多摩市の推進するESDやSDGsと関連付けて解説されている。 	<ul style="list-style-type: none"> 千葉県船橋市の「こども未来会議室」が取り上げられ、課題を市長に提案する取り組みが紹介されており、多摩市子どもみらい会議と同じような取り組みが紹介されている。

教科名		社会(公民的分野)	教科書調査報告(教科書調査委員会)
調査の観点	発行者名	育鵬社	自由社
A 内容 について	(1)基礎・基本の確実な定着に関する配慮や工夫がなされているか。	<ul style="list-style-type: none"> ・巻頭になぜ公民を学ぶのかを詳しく説明し、公民を学ぶ意義について理解し、学習に取り組むことのできる配慮がされている。 ・学習の流れをつかむために章扉で学習内容を概観し、各章に「入り口」と「これから」を設け、興味・関心を促したり、未来の姿について構想したりすることや学習のまとめで章の学習内容を簡潔にまとめ、基礎・基本の定着を促している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・巻頭に公民を学ぶ目的やその意義が簡潔に示されており、教科書の使い方が細かく掲載されている。 ・5つの章と単元番号が1～72と連番になっており、1つの単元だけの学習ではなく、すべての単元を重ねて学習する仕組みになっており、基礎・基本の確実な定着につながる配慮がされている。
	(2)課題解決のために必要な思考力や判断力、表現力等を育成することに関する配慮や工夫がなされているか。	<ul style="list-style-type: none"> ・課題解決の学習過程の中で、公民学習における思考力・判断力・表現力や資料活用能力を育むために、「見方・考え方」「資料活用」「TRY！」などのコーナーが豊富に設けられている。 ・導入資料と学習課題が示され、単元ごとの「探究」では、学習課題に対応し、学習内容を振り返るとともに、これまでの学習を深めることのできる構成となっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「課題の探求」として「レポートと卒業論文を作ろう」というコーナーがあり、自らテーマを設定し、主体的に学習を進め、思考力や判断力・表現力を育成する手だてとなっている。 ・ディベートの進め方や実践例が詳しく掲載されており、知識を生かして表現するための手だてとなっている。
	(3)資料が精選され、その内容が時代に即応したものになっているか。	<ul style="list-style-type: none"> ・資料としてマンガ等を用いており、学習内容に生徒が関心をもちやすいよう吹き出しを設け、説明を補っている。 ・現代社会の課題である日本の伝統文化について信仰・芸術・武道・美術・建築・工芸・和菓子・料理・芸能において様々な写真を用いて明確に表現している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・写真資料やグラフデータが時代に即したものとなっており「ミニ知識」「もっと知りたい」の中で紹介されている。 ・単元の最初のページには単元の内容に即した絵画が親しみやすいタッチで描かれるとともに、「アクティブに深めよう」では現代社会に関わる内容を記載している。
	(4)持続可能な社会づくりに向けた教育・ESDの視点が取り入れられているか。	<ul style="list-style-type: none"> ・巻末の「持続可能な社会をめざして」では、日本人が作り上げてきた建造物・文化・年中行事・モノづくり・科学技術等の写真や、これから作り上げていく電気自動車やリニアモーターカー等を掲載するとともに巻頭及び第5章ではSDGsに関するページを設けている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・巻頭には日本の先端技術、巻末には日本の伝統工芸品が取り上げられ、日本人がこれから作り上げるものと、今まで作り上げてきたものを明示している。また、終章の「アクティブに深めよう」では「日本人の価値観・感性からSDGsを考えよう」が掲載され、持続可能な社会づくりについて考える活動が設定されている。
B 使用上の 便宜 について	(1)生徒が主体的に学習を進めやすいような便宜が図られているか。	<ul style="list-style-type: none"> ・本文の学習に関連した内容を掲載するコラムの「学習を深めよう」や個人や班で取り組むことのできる「やってみよう」が豊富に用意されており、生徒が主体的に学習を進めやすい構成になっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各単元の最後の「もっと知りたい」というコーナーでは、学習の内容に関連したコラムが写真資料やグラフ資料が詳しく掲載され、興味をもって主体的に学習を進めることのできる構成となっている。
	(2)多摩市という地域の実態に即しているか。	<ul style="list-style-type: none"> ・各家庭で使いきれない食品を預かり、自治体やNPOを通じて支援の必要な人へ届けるフードドライブや子ども食堂など、多摩市の中でも取り組まれている内容が紹介されている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「魅力あるまちづくりを考えよう」では、地域社会の活性化をテーマに、生徒が魅力あるまちづくりのために、まちの課題を考えグループで具体的な方策を考える構成となっており多摩市のまちづくりと関連させて考えることができる。